

ビンゼレックス®による 乾癬治療を受けられる方へ

監修：森田 明理 先生

名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学 教授



もくじ

- はじめに 3
- ビンゼレックス®の特徴 4
- ビンゼレックス®の投与スケジュール 5
- ビンゼレックス®による治療を受けるにあたって... 6
- 日常生活の注意点 9

はじめに

乾癬の症状がよくなったら、
どんなことがしたいでしょうか？



病気の治療にあたっては、その病気のことや治療内容についてよく理解したうえで、目標をもって治療に取り組むことがとても大切です。乾癬は、症状によってはやりたいことができず、心身ともに影響を受ける疾患といわれています。乾癬の治療法にはいくつかありますが、おそらく、これまでにできなかったことを実現するために生物学的製剤の一つであるビンゼレックス®による治療を選択された方が多いのではないかと思います。

乾癬治療に携わるすべての医療従事者があなたの治療目標を実現するためのサポーターです。治療を進めていく中で不安なことがあれば何でも相談してください。

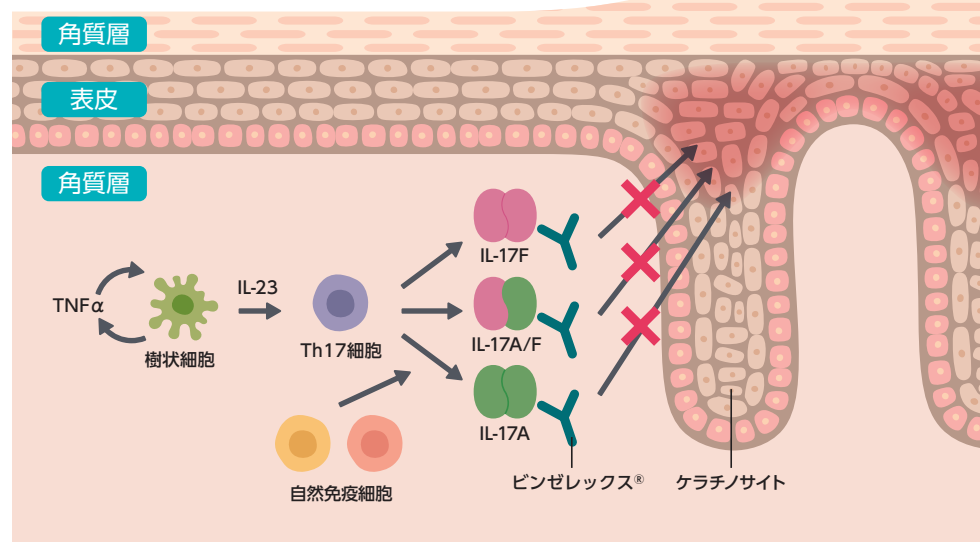
目標に向かって、主治医の先生と一緒に治療をしていきましょう。

ビンゼレックス®の特徴

ビンゼレックス®とは

ビンゼレックス®は、皮膚の中で炎症を起こし乾癬の症状の原因となるサイトカイン※の一種であるIL-17AおよびIL-17Fという物質をターゲットにした薬剤で、これらのサイトカインに結合してはたらきを抑えることで皮膚の炎症を防ぎ、乾癬を改善します。

ビンゼレックス®の作用により皮膚の炎症を防ぐことで、乾癬の改善が期待される



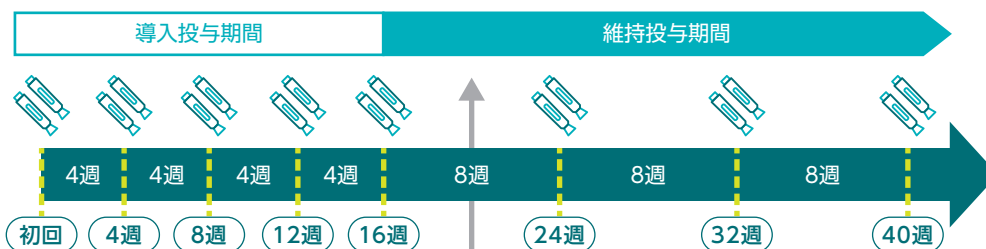
※サイトカインとは、本来、免疫にかかわる細胞が異物から体を防御するため、体内に放出する物質のことです。免疫の異常によりサイトカインが過剰につくられると、乾癬をはじめとしたさまざまな病気が生じると考えられます。IL-17AおよびIL-17Fが増え過ぎると、皮膚の炎症を起こし、乾癬の発症や症状の悪化につながります。

ビンゼレックス®の投与スケジュール

通常、1回320mg(160mg製剤2本)を初回から16週までは4週間ごとに皮下注射し、以降は8週ごとに皮下注射します。

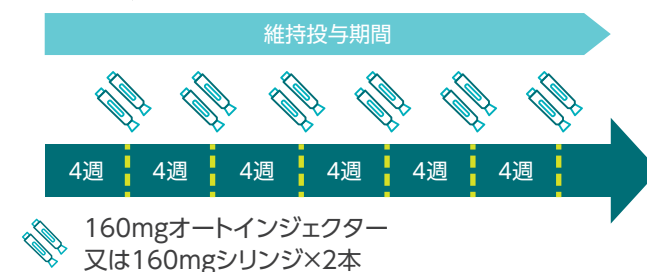
※患者さんの状態によっては、16週以降も4週ごとに皮下注射する場合があります。

● 通常



投与間隔は患者さんの背景や症状などを考慮し、医師との相談の上決定されます

● 16週以降も4週間隔で投与する場合



ビンゼレックス®による治療を受けるにあたって

投与前の確認事項

以下の病気にかかったことのある方は、ビンゼレックス®の投与前に必ず主治医にお申し出ください。

☐ 結核

(結核の治療を優先して行う場合があります)

☐ 炎症性腸疾患(クローン病や潰瘍性大腸炎を含む)

(炎症性腸疾患が悪化するおそれがあります)

以下に該当する方も主治医にお申し出ください。

☐ 現在感染症にかかっている、もしくは感染症が疑われる方

(感染症が悪化するおそれがあります)

☐ 妊娠または妊娠している可能性のある方

(治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみビンゼレックス®による治療が可能です)

☐ 授乳中の方

(治療上の有益性および母乳栄養の有益性を考慮して、授乳の継続または中止が検討されます)

☐ これまでに生物学的製剤の投与を受けたことのある方

(可能であれば使用したことのある薬剤名をお伝えください)

ビンゼレックス®による治療を受けるにあたって

ビンゼレックス®の主な副作用

国内または海外で確認されているビンゼレックス®の主な副作用には以下のようなものがあります。

口腔カンジダ症

免疫力の低下や口腔内の不衛生を原因として、常在菌の一種であるカンジダが異常に増えることで起こります。口腔内や舌の痛み、白い苔のようなものが付着したり、味覚異常などの症状がみられます。



上気道感染

多くはウイルスが鼻咽頭から咽頭粘膜に付着することで感染が起こります。鼻水、くしゃみ、鼻づまり、のどの痛みなどの症状がみられます。



過敏症反応

頻度は低いものの、薬剤に対するアレルギー反応としてアナフィラキシー(血圧低下、呼吸困難など)、アトピー性皮膚炎などを起こす可能性があります。



これらの症状に気づいたら、必ず主治医にお申し出ください

ビンゼレックス®による治療を受けるにあたって

ビンゼレックス®の投与中に注意すること

注射当日

- 注射した部位をもまず、刺激しないように注意してください。

日常生活

- 感染症を防ぐため、日頃からうがいや手洗いをを行い、規則正しい生活を心がけてください。
- 予防接種を受ける場合には、事前に必ず主治医にご相談ください。
- 妊娠・授乳を希望する場合は、すぐに主治医にご相談ください。



副作用かな?と思ったら

7ページで紹介した主な副作用のほか、以下のような症状があらわれた場合、すみやかに主治医、看護師、薬剤師などへ相談してください。

- 口の中の痛み、舌の痛み、味覚異常
- 発熱、咳、鼻水、のどの痛み、頭痛、悪寒などかぜのような症状が続く
- 皮膚に今までとは違う発疹(じんましんなど)、かゆみ
- 息苦しさ
- 冷や汗、動悸
- 体のだるさ
- 腹痛、下痢、便に粘液や血が混じる
- 体重が減った。食欲がない
- 肛門の違和感や痛み、膿が出る

日常生活の注意点

乾癬の悪化を防ぐために気をつけること

食事・運動

- 栄養バランスのとれた食生活、適度な運動を心がけましょう。
- 脂肪分の多い食事は乾癬を悪化させる原因になるため控えめにしましょう。
- 辛いものや熱いものによりかゆみが増すことがあるため控えめにしましょう。
- お酒により血行が良くなり、かゆみが増すことがあるので控えめにしましょう。

衣服

- 肌がこすれにくいゆったりとした衣服を選びましょう。
- 柔らかく刺激の少ない素材を選びましょう。

入浴

- 高温や長時間の入浴によりかゆみが増すことがあるので、温度はぬるめとして長時間の入浴はできるだけ避けましょう。
- 体を洗う際は、ゴシゴシこすらず、石けんなどをよく泡立ててやさしく洗いましょう。

その他

- 悪化してしまうことがあるため、なるべく掻かないようにしましょう。
- 乾燥により皮膚の症状が悪化することがあるため、特に冬は保湿を心がけることが大切です。
- 喫煙は乾癬の悪化につながることもあるので禁煙にチャレンジしましょう。

MEMO

[illegible]